Nipponham Group
人輝く、食の未来

決算説明資料

～2018年3月期　第3四半期～

説明会開催予定日
２０１８年2月5日（月）
日本ハム株式会社

Nipponham Group
人輝く、食の未来

目　次

Ⅰ．2018年3月期　第3四半期連結業績の総括

Ⅱ．2018年3月期の見通し

Ⅲ．2018年3月期　第3四半期財務データ

Ⅰ．2018年3月期　第3四半期連結業績の総括

1. オペレーティング・セグメント情報　第3四半期
2. オペレーティング・セグメント情報　第3四半期累計
3. オペレーティング・セグメント情報　加工事業本部
4. オペレーティング・セグメント情報　食肉事業本部
5. オペレーティング・セグメント情報　関連企業本部
6. オペレーティング・セグメント情報　海外事業本部
7. 海外　主要所在地別　外部顧客売上高実績

1. オペレーティング・セグメント情報　第3四半期

（単位：百万円）

		2015.03.3Q	2016.03.3Q	2017.03.3Q	2018.03.3Q	前年差	前年比（%）
加工事業本部	売上高	98,699	96,105	100,701	102,196	1,495	1.5
	営業利益	3,303	4,342	5,326	4,920	△ 406	△ 7.6
食肉事業本部	売上高	201,419	205,827	199,573	211,681	12,108	6.1
	営業利益	11,975	13,590	15,363	13,616	△ 1,747	△ 11.4
関連企業本部	売上高	46,846	47,261	46,807	48,509	1,702	3.6
	営業利益	931	1,581	2,018	1,402	△ 616	△ 30.5
海外事業本部	売上高	64,667	63,929	54,981	67,708	12,727	23.1
	営業利益	5,057	901	247	△ 394	△ 641	-
消去調整他	売上高	△ 70,148	△ 73,377	△ 68,805	△ 76,864	-	-
	営業利益	79	449	△ 21	78	-	-
連結合計	売上高	341,483	339,745	333,257	353,230	19,973	6.0
	営業利益	21,345	20,863	22,933	19,622	△ 3,311	△ 14.4

（単位：百万円）
（連結）

売上高

（単位：百万円）
（連結）

営業利益

※オペレーティング・セグメント情報のセグメント別売上高と、当資料P.23の品種別の売上高の数値とは一致しません。
※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

2. オペレーティング・セグメント情報　第3四半期累計

Nipponham Group
人輝く、食の未来

（単位：百万円）

		2015.03.3Q累計	2016.03.3Q累計	2017.03.3Q累計	2018.03.3Q累計	前年差	前年比（%）
加工事業本部	売上高	268,256	262,509	269,791	274,709	4,918	1.8
	営業利益	4,904	4,794	8,562	7,124	△ 1,438	△ 16.8
食肉事業本部	売上高	556,888	582,762	570,234	601,273	31,039	5.4
	営業利益	25,980	32,243	34,782	38,113	3,331	9.6
関連企業本部	売上高	121,435	124,353	124,507	128,437	3,930	3.2
	営業利益	864	2,013	3,620	2,321	△ 1,299	△ 35.9
海外事業本部	売上高	184,896	193,541	164,206	193,093	28,887	17.6
	営業利益	10,290	4,415	△ 352	△ 2,922	△ 2,570	-
消去調整他	売上高	△ 208,563	△ 209,728	△ 202,389	△ 216,402	-	-
	営業利益	333	460	△ 247	545	-	-
連結合計	売上高	922,912	953,437	926,349	981,110	54,761	5.9
	営業利益	42,371	43,925	46,365	45,181	△ 1,184	△ 2.6

※オペレーティング・セグメント情報のセグメント別売上高と、当資料P.23の品種別の売上高の数値とは一致しません。
※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

3. オペレーティング・セグメント情報　加工事業本部①

第3四半期実績

（単位：百万円）

	2017.03.3Q	2018.03.3Q	前年差	前年比(%)
売上高計	100,701	102,196	1,495	1.5
営業利益	5,326	4,920	△ 406	△ 7.6
営業利益率	5.3%	4.8%	-	-

【第3四半期累計売上高の状況】

ハム・ソーセージは、コンシューマについてキャラクターを活用した販促強化で堅調に推移したが、業務用のCVSチャネルでベンダーへの供給が減り、前年を下回って売上高は微減となった。

デリ商品は、主力の中華名菜がTVCM投入で回復基調にあるものの、主力の石窯工房で苦戦。業務用ではメニューの拡充や新商品導入が進みＣＶＳチャネル、外食チャネルともに好調を維持して増収となった。

第3四半期累計実績

（単位：百万円）

	2017.03.3Q累計	2018.03.3Q累計	前年差	前年比(%)
売上高計	269,791	274,709	4,918	1.8
営業利益	8,562	7,124	△ 1,438	△ 16.8
営業利益率	3.2%	2.6%	-	-

【第3四半期累計営業利益の状況】

販売部門ではコスト改善等が寄与したが、製造部門と物流部門での人手不足を背景とした人件費の増加や、原材料価格の上昇、ギフトの販売個数の伸び悩みで減益となった。

3. オペレーティング・セグメント情報　加工事業本部②

【営業利益増減要因分析】

	2018.03月期				
	上期 実績	3Q 実績	3Q累計 見込み	3Q累計 実績	差異
数量拡大	4億円	**0億円**	5億円	**4億円**	△1億円
利益率改善	△14億円	**△4億円**	△9億円	**△18億円**	△9億円
外部要因	△4億円	**△9億円**	△13億円	**△13億円**	△0億円
（内訳）主原料価格	△4億円	**△7億円**	△10億円	**△11億円**	△0億円
（内訳）副資材・燃料等	△0億円	**△3億円**	△3億円	**△3億円**	0億円
内部要因	△10億円	**5億円**	4億円	**△5億円**	△8億円
（内訳）品種構成（商品リニューアル）	△7億円	**2億円**	△8億円	**△5億円**	3億円
（内訳）製販部門改善	△3億円	**3億円**	12億円	**1億円**	△11億円
その他要因	0億円	**0億円**	0億円	**0億円**	0億円
合計	△10億円	**△4億円**	△5億円	**△14億円**	△10億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【第3四半期累計営業利益実績の増減要因グラフ】

（単位：億円）

●計画差異要因分析（第3四半期累計）

・数量拡大　・・・販促や提案を強化し昨年よりも伸長したが計画には届かなかった。

・品種構成　・・・業務用においてリニューアル等を進め計画を上回った。

・製販部門改善・・・販売部門では構造改革によるコスト改善や前期の新工場稼働に伴う費用の解消があったが、ギフト商品の苦戦や数量未達のため効率化による改善が計画に届かなかった。

Nipponham Group 人輝く、食の未来

●ギフト売上実績

・2018年3月期の歳暮実績　前年個数比：　93%
　『美ノ国』ギフト実績　　前年個数比：101%（構成比は26%）
・2018年3月期の通期実績　前年個数比：　95%
　『美ノ国』ギフト実績　　前年個数比：102%（構成比は26%）

【ギフト販売個数　2018年3月期実績】　（単位：千個）

		2017.03 実績	2018.03 実績	
		個数	個数	前年比
中元	全社販売個数	1,997	1,979	99%
	(うち美ノ国)	513	538	105%
歳暮	全社販売個数	4,189	3,889	93%
	(うち美ノ国)	998	1,006	101%
合計	全社販売個数	6,186	5,868	95%
	(うち美ノ国)	1,511	1,544	102%
	(構成比)	24%	26%	-

●主要ブランド売上実績

発売から1年が経過しようとし、順調に推移する「豊潤」

3Qから販売が回復した「中華名菜」

【（参考）主要ブランド商品売上高実績（対前年同期比）】

ハム・ソーセージ	2018.03 実績			デリ商品	2018.03 実績		
	上期	3Q	3Q累計		上期	3Q	3Q累計
シャウエッセン	100%	100%	100%	石窯工房群	93%	93%	93%
森の薫りW＋豊潤W	145%	158%	150%	中華名菜群	96%	107%	99%
ロースハム群	88%	95%	90%	プリフライ群	100%	98%	99%
ベーコン群	96%	91%	94%	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞ・ﾐｰﾄﾎﾞｰﾙ群	100%	105%	102%
焼豚群	100%	101%	100%	カレー群	106%	100%	104%
コンシューマ商品計	100%	101%	100%	コンシューマ商品計	96%	99%	97%

●チャネル別売上実績

①コンシューマ商品
ハム・ソーセージは、「シャウエッセン」が堅調に推移した事に加え、店頭販促を行った「豊潤あらびきウインナー」で上乗せを図ったが、主力の「彩りキッチン」が伸び悩み売上高は昨年並みだった。デリ商品は、アイテム拡充を図った「天津閣」が好調に推移したのに加え、TVCMを投入した「中華名菜」が回復基調にあるが、主力の「石窯工房」が苦戦して金額は前年を下回った。
②業務用商品
ハム・ソーセージは、大手外食チェーンにおいて定番メニューやキャンペーンの導入により外食チャネルは堅調に推移したが、ＣＶＳチャネルで前年を下回った。デリ商品は、メニューの拡充や新商品導入によりＣＶＳチャネル、外食チャネルともに好調に推移した。

【（参考）3Q累計チャネル別伸び率（対前年同期比）】

		数量	金額
ハム・ソーセージ	ｺﾝｼｭｰﾏ	103%	100%
	業務用	100%	95%
	合計	102%	99%
デリ商品	ｺﾝｼｭｰﾏ	99%	97%
	業務用	107%	109%
	合計	103%	102%

4. オペレーティング・セグメント情報　食肉事業本部①

Nipponham Group
人輝く、食の未来

第３四半期実績

（単位：百万円）

	2017.03 3Q	2018.03 3Q	前年差	前年比(%)
売上高計	199,573	211,681	12,108	6.1
営業利益	15,363	13,616	△ 1,747	△ 11.4
営業利益率	7.7%	6.4%	-	-

【第３四半期累計売上高の状況】

国産豚肉と鶏肉は、相場高が続き数量・金額ともに伸長した。特に国産鶏肉はムネ肉を中心とした堅調な需要に支えられ大きく昨年を上回った。輸入鶏肉も、数量は減少したものの前年度の反動で売上高を伸ばした。
結果、全畜種で昨年を上回る売上高となり増収となった。

第３四半期累計実績

（単位：百万円）

	2017.03 3Q累計	2018.03 3Q累計	前年差	前年比(%)
売上高計	570,234	601,273	31,039	5.4
営業利益	34,782	38,113	3,331	9.6
営業利益率	6.1%	6.3%	-	-

【第3四半期累計営業利益の状況】

輸入食肉では、3Qに入り輸入鶏肉の在庫増で市況が軟調に推移する中でも収益性を重視した販売に注力し、累計として増益を確保したが、輸入牛肉の仕入価格上昇の継続が影響し減益となった。
全体としては、国産鶏肉で相場高の影響のほか、飼料価格の値下げ、増産による生産性の向上等が牽引し、収益に大きく貢献し増益となった。

4. オペレーティング・セグメント情報　食肉事業本部②

Nipponham Group
人輝く、食の未来

【営業利益増減要因分析】

	2018.03月期				
	上期 実績	3Q 実績	3Q累計 見込み	3Q累計 実績	差異
輸入食肉市況	12億円	**△16億円**	7億円	**△5億円**	△12億円
国内食肉市況	9億円	**△2億円**	8億円	**7億円**	△1億円
国内ファーム事業の変動	30億円	**14億円**	39億円	**44億円**	5億円
フード事業の伸長	△2億円	**0億円**	△4億円	**△1億円**	2億円
その他要因	2億円	**△14億円**	△9億円	**△11億円**	△2億円
合計	51億円	**△18億円**	41億円	**33億円**	△8億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【第3四半期累計営業利益実績の増減要因グラフ】

●計画差異要因分析（第3四半期累計）

【輸入食肉市況】　・・・輸入鶏肉の市中在庫が想定以上に増加した結果、価格が軟調に推移し計画を下回った。

【国内ファーム事業の変動】　・・・豚肉・鶏肉ともに相場高が継続したことと、鶏肉は処理羽数の増加等によって生産性が向上したことにより計画を上回った。

【フード事業の伸長】　・・・輸入牛肉と国産豚肉が相場高で苦戦したが、国産鶏肉はTVCMの効果もありブランド食肉が伸長し、計画を上回った。

5. オペレーティング・セグメント情報　関連企業本部

第３四半期実績

（単位：百万円）

	2017.03.3Q	2018.03.3Q	前年差	前年比(%)
売上高計	46,807	48,509	1,702	3.6
営業利益	2,018	1,402	△ 616	△ 30.5
営業利益率	4.3%	2.9%	-	-

第３四半期累計実績

（単位：百万円）

	2017.03.3Q累計	2018.03.3Q累計	前年差	前年比(%)
売上高計	124,507	128,437	3,930	3.2
営業利益	3,620	2,321	△ 1,299	△ 35.9
営業利益率	2.9%	1.8%	-	-

【第3四半期累計売上高の状況】

・水産事業
量販店や外食向け販売が好調であったことや、年末用高単価商品の価格改定の効果もあり増収となった。

・乳製品事業
市場の減速感が否めないヨーグルトは苦戦したが、乳酸菌飲料は好調に売り上げを伸ばし増収となった。チーズは市場が拡大しており、コンシューマ、業務用共に伸長し増収となった。

【第3四半期累計営業利益の状況】

・水産事業
国際的な需要増や日本における秋鮭・イカ等一部魚種の漁獲が不安定であったことで原料が高騰し、価格改定を実施したものの減益となった。

・乳製品事業
原材料価格の上昇により減益となった。

6. オペレーティング・セグメント情報　海外事業本部①

Nipponham Group
人輝く、食の未来

第3四半期実績

〔 売上高 〕

〔 営業利益 〕

		2017.03 3Q	2018.03 3Q	前年差	前年比(%)
海外計	売上高	54,981	67,708	12,727	23.1
	営業利益	247	△ 394	△ 641	-
豪州（ウルグアイ含）	売上高	18,665	26,247	7,582	40.6
	営業利益	△ 257	△ 399	△ 142	-
米州	売上高	17,970	20,561	2,591	14.4
	営業利益	810	5	△ 805	△ 99.4
アジア・欧州	売上高	18,880	21,612	2,732	14.5
	営業利益	△ 117	249	366	-

第3四半期累計実績

〔 売上高 〕

〔 営業利益 〕

		2017.03. 3Q累計	2018.03. 3Q累計	前年差	前年比(%)
海外計	売上高	164,206	193,093	28,887	17.6
	営業利益	△ 352	△ 2,922	△ 2,570	-
豪州（ウルグアイ含）	売上高	56,893	74,511	17,618	31.0
	営業利益	△ 1,208	△ 2,349	△ 1,141	-
米州	売上高	54,274	58,225	3,951	7.3
	営業利益	1,188	△ 441	△ 1,629	-
アジア・欧州	売上高	55,027	62,291	7,264	13.2
	営業利益	278	579	301	108.3

※売上金額,営業利益は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。（セグメント間取引の消去があるため、海外計は各地域の合計とは一致しません）

【第3四半期累計売上高の状況】

・豪州事業
ウルグアイ BPU社の売上高が今期より上乗せになったことに加え、豪州で処理頭数の増加と3Qにかけて高価格部位のロインを始め販売価格が好転したことや、中国向け輸出の回復もあり増収となった。

・米州事業
現地卸売事業の拠点数増加による数量拡大と日本向け食肉輸出数量の増加で増収となった。

【第3四半期累計営業利益の状況】

・豪州事業
販売価格は上昇したが、1Qに仕入れた高コストの牛の出荷が3Qまで続いたため減益となった。
ウルグアイ BPU社は、生体価格が下落したことで収益改善が進んだ。

・米州事業
加工事業は主原料価格高騰や販促費増によるコスト増で減益、日本向け輸出も仕入価格の高騰と米ドル高の為替環境が厳しく減益となった。

6. オペレーティング・セグメント情報　海外事業本部②

【営業利益増減要因分析】

	2018.03月期				
	上期実績	3Q実績	3Q累計見込み	３Q累計実績	差異
豪州事業部	△10億円	**△１億円**	△16億円	**△１１億円**	5億円
米州事業部	△8億円	**△８億円**	△12億円	**△１６億円**	△4億円
アジア・欧州事業部	△1億円	**４億円**	3億円	**３億円**	0億円
その他要因	△0億円	**△１億円**	△1億円	**△１億円**	△0億円
合計	△19億円	**△６億円**	△27億円	**△２６億円**	1億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【第3四半期累計営業利益実績の増減要因グラフ】

（単位：億円）

計画差異要因

●豪州事業

生体価格は下落傾向にあるが、１Qに仕入れた高仕入価格在庫の牛の出荷が続いたため苦戦した。

●米州事業

北米　　デイリーフーズ社は、食肉仕入価格や加工品原料価格の高騰に加え前期と比較し米ドル高で推移したことが響き苦戦した。

●アジア・欧州事業

トルコ　エゲタブ社は、国内の旺盛な需要と販売価格の好転で計画通り推移した。

欧州　　日本向け食肉輸出において、食肉仕入価格の高騰が続き苦戦した。

7．海外　主要所在地別 外部顧客売上高実績

Nipponham Group
人輝く、食の未来

（単位：百万円：%）

	2015.03	2016.03	2017.03					2018.03		
	通期	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
豪州	76,646	70,384	14,838	12,411	13,711	10,632	51,592	14,652	23,831	21,066
米州	22,052	25,092	5,353	5,059	4,494	5,478	20,384	5,069	5,201	5,756
アジア・欧州	14,907	20,775	4,550	5,245	4,659	5,136	19,590	5,797	6,823	6,438
海外計	113,605	116,250	24,742	22,713	22,866	21,245	91,566	25,518	35,855	33,260
海外売上比率	9.47%	9.46%	8.46%	7.55%	6.86%	7.70%	7.62%	8.41%	11.05%	9.42%

※売上金額は、外部顧客に対する売上高です。

Ⅱ．2018年3月期の見通し

1. 2018年3月期　営業利益計画
2. 2018年3月期計画（加工事業本部）
3. 2018年3月期計画（食肉事業本部）
4. 2018年3月期計画（関連企業本部）
5. 2018年3月期計画（海外事業本部）

1. 2018年3月期　営業利益計画①

	2018.03 3Q累計			2018.03 4Q			2018.03 通期		
	2017.03 3Q実績	実績	増減	2017.03 4Q実績	見込み	増減	2017.03 通期実績	見込み	増減
加工事業本部	86億円	71億円	△14億円	△7億円	**△7億円**	0億円	79億円	**64億円**	△15億円
食肉事業本部	348億円	381億円	33億円	91億円	**93億円**	2億円	439億円	**474億円**	35億円
関連企業本部	36億円	23億円	△13億円	1億円	**△2億円**	△4億円	37億円	**21億円**	△16億円
海外事業本部	△4億円	△29億円	△26億円	△9億円	**△13億円**	△4億円	△13億円	**△42億円**	△29億円
消去調整他	△2億円	6億円	8億円	△3億円	**△2億円**	0億円	△5億円	**3億円**	8億円
合計	464億円	452億円	△12億円	74億円	**68億円**	△6億円	538億円	**520億円**	△18億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

1．2018年3月期　営業利益計画②

Nipponham Group
人輝く、食の未来

【第2Q時見込みとの差異】

※第4四半期及び通期見込みについては、第３四半期後に見直した計画となっています。

	2018.03.3Q			2018.03.4Q			2018.03.下期			2018.03.通期見込み		
	2Q時見込み	実績	差異	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異
加工事業本部	59億円	49億円	△10億円	△1億円	△7億円	△6億円	58億円	**42億円**	△16億円	80億円	**64億円**	△16億円
食肉事業本部	144億円	136億円	△8億円	89億円	93億円	4億円	233億円	**229億円**	△4億円	478億円	**474億円**	△4億円
関連企業本部	16億円	14億円	△2億円	1億円	△2億円	△3億円	17億円	**12億円**	△5億円	26億円	**21億円**	△5億円
海外事業本部	△5億円	△4億円	1億円	2億円	△13億円	△15億円	△3億円	**△17億円**	△14億円	△28億円	**△42億円**	△14億円
消去調整他	0億円	1億円	1億円	△1億円	△2億円	△1億円	△1億円	**△2億円**	△1億円	4億円	**3億円**	△1億円
合計	214億円	196億円	△18億円	90億円	68億円	△22億円	304億円	**264億円**	△40億円	560億円	**520億円**	△40億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【営業利益計画　増減要因分析】

加工事業本部	4Q			下期			通期		
	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異
数量拡大	3億円	1億円	△3億円	4億円	1億円	△4億円	8億円	4億円	△4億円
利益率改善	2億円	△1億円	△4億円	7億円	△6億円	△12億円	△7億円	△19億円	△12億円
外部要因	△9億円	△9億円	0億円	△18億円	△18億円	△0億円	△22億円	△22億円	△0億円
（内訳）主原料価格	△7億円	△7億円	0億円	△13億円	△14億円	△0億円	△17億円	△18億円	△0億円
（内訳）副資材・燃料等	△2億円	△2億円	0億円	△4億円	△4億円	0億円	△5億円	△5億円	0億円
内部要因	11億円	7億円	△4億円	25億円	12億円	△12億円	15億円	3億円	△12億円
（内訳）品種構成（商品リニューアル）	0億円	4億円	4億円	△1億円	6億円	6億円	△8億円	△2億円	6億円
（内訳）製販部門改善	11億円	4億円	△8億円	25億円	7億円	△19億円	23億円	4億円	△19億円
その他	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円
合計	6億円	△1億円	△6億円	11億円	△5億円	△16億円	1億円	△15億円	△16億円

食肉事業本部	4Q			下期			通期		
	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異
輸入食肉市況	1億円	△5億円	△6億円	△4億円	△21億円	△18億円	8億円	△10億円	△18億円
国内食肉市況	△2億円	0億円	2億円	△2億円	△1億円	1億円	7億円	7億円	1億円
国内ファーム事業の変動	0億円	4億円	4億円	9億円	18億円	9億円	39億円	48億円	9億円
フード事業の伸長	△1億円	0億円	1億円	△3億円	0億円	3億円	△5億円	△1億円	3億円
その他要因	△1億円	2億円	3億円	△12億円	△12億円	1億円	△10億円	△9億円	1億円
合計	△2億円	2億円	4億円	△12億円	△16億円	△4億円	39億円	35億円	△4億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

2. 2018年3月期計画（加工事業本部）

●コンシューマ商品販売施策

前中計最終年度2015年3月期を基準としたコンシューマ売上数量の年次比較

■ デリ商品は、アイテム拡充や既存品のブラッシュアップ等で順調に推移してきたが、今期は伸び悩む。ハム・ソーセージは、ＰＢや単味品で苦戦したが、積極的な販促策や新ブランドの投入効果もあり数量回復を果たした。

■ 第４四半期に向けて
・ハム・ソーセージは「シャウエッセン」のTVCM投入に加え、「豊潤あらびきウインナー」は発売１周年企画として、試食販売や増量を実施し数量拡大を目指す。
・デリ商品は、「中華名菜」は好評だったTVCMを再投入する。「石窯工房」はライン投資による効率化を進めながら、若手俳優を起用した新CMを投入し数量拡大を目指す。
・お客様視点で悩みや課題解決のマーケティングを推進し、市場開拓を進める。

保存に便利なジッパータイプのパッケージを販売した「豊潤あらびきウインナー」

TVCMで数量回復を目指す「石窯工房」シリーズ

幅広いメニューに対応できる「切り落とし シュレッドビーフ」

食べきり需要に対応した「アンティエ」のツインパック

●業務用商品販売施策

前中計最終年度2015年3月期を基準とした業務用売上数量の年次比較

■ デリ商品では、ＣＶＳ・外食チャネルでメニュー提案等で数量拡大したが、ハム・ソーセージは、海外製造商品の減少により緩やかな回復に留まる。

■ 第４四半期に向けて
・ＣＶＳチャネルは、好調なカウンター向けプリフライ系商品の売り伸ばしを図ると共にアイテム拡充やメニュー提案、付加価値商品の提案によりベンダー向け商品の拡大を図る。
・外食チャネルは、大手外食チェーンへのキャンペーン導入や人手不足を背景としたバックヤードでの作業負荷低減を訴求した差別化メニューの導入を図る。

簡便性を追求した「スチームポーク」

食感等にこだわった「棒ヒレカツ」

3. 2018年3月期計画（食肉事業本部）

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●国内生産事業

・飼料価格は、先物価格は下落するものの為替の円安等により、４Ｑ価格は値上げとなった。
・豚肉の生産は安定してきており、全国出荷頭数も回復傾向にある。
・鶏インフルエンザに関しては、予断を許さない状況が続く中、防疫体制を徹底する。

●国内食肉市況

・牛肉価格は年明け後に落ち着き、昨年並みで高値安定の予想。産地や等級による格差が大きい状況。
・豚肉においては昨年末の乱高下から落ち着きを取り戻し昨年並みを見込む。
・鶏肉価格はムネ肉を中心に堅調な需要は継続を見込むが、モモ肉は昨年を下回ることが予想され、
加重平均では昨年を若干下回ると見る。

●輸入食肉市況

・牛肉ではセーフガードの影響と現地相場高の影響で弱含みを見込む。
・豚肉は、カナダ産など国内輸入量は抑え気味になり、市況は軟調に推移する予想。
・鶏肉は、市中在庫が重たく、相場は弱含みとなっている。国内の在庫解消は来期以降とみられる。

●食肉販売（フード会社）

・アンガスビーフ群の定番納品や、国産鶏肉「桜姫」、
国産豚肉「麦小町」の更なる拡販に努める。
・量販店への深耕販売は継続すると共に、外食等のチャネルを安定させる。

３Ｑ累計実績　全体の数量伸長103%

4. 2018年3月期計画（関連企業本部）

●水産事業の売上拡大施策

（マリンフーズ）

・原材料の確保に努めると共に、好調に推移する外食チャネルへの寿司種を中心に拡販し、増収につなげる。
・超高圧加熱加工機を活用した『卵黄ソース』に、『黄身しょうゆ』と『うに卵黄ソース』を加え拡販を図る。

（宝幸）

・健康志向の高まりに昨年のＴＶでの露出が拍車をかけ、需要が拡大するさば缶の拡販を進める。

●乳製品事業の売上拡大施策

（チーズ）

・好調に推移する市販用チーズでは、ベビーチーズのラインナップを拡充し拡販を図る。
・東西の工場での生産体制を増強し、拡大するチーズ市場に対応する。

（ヨーグルト）

・主力のバニラヨーグルトと引き続き好調なスムージーシリーズを軸に拡販を図る。
・昨年より販売したギリシャヨーグルトに新商品を投入し店頭での露出を高める。
・業務用におけるヨーグルトソースの販売について提案営業を強化し拡販に努める。

エリアCMを投下し拡販を図る
「バニラヨーグルト」

ラインナップ拡充し拡販を図る
「クレンマ」シリーズ

●主原料・副資材価格動向

・高止まりする水産品の販売は厳しい環境が継続すると見込む。
・チーズ原料では、ＥＵは増産の見通しが出ているが、オセアニアは増産計画がなく、当面は高値で推移すると見込む。
・ヨーグルトにおいては、国産の脱脂粉乳が不足しており高値継続を見込む。

5. 2018年3月期計画（海外事業本部）

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●豪州事業部

・高コストの生体出荷が今期まで続くため、赤字解消は来期になると見込む。
・厳しい環境は継続するが、事業環境は緩やかな回復を見込む。

●米州事業部

・現地食肉相場は前年を上回っており、日本向け食肉輸出の厳しい環境は継続すると見込む。
・加工食品は設備投資による生産性の改善や原料高の転嫁を進め、収益性の改善を図る。

●アジア・欧州事業部

・トルコ エゲタブ社は、４Ｑに不需要期に入るため減速を見込む。
・タイにおける日本向け鶏肉加工品の輸出は現地通貨高と原料高で厳しい環境が続く。

【（参考）2018.03　3Q累計豪州事業販売実績 】

主な販売先国	数量構成比	数量（前年比）
日本	28%	101%
米国	12%	102%
韓国	10%	77%
中国	10%	149%
台湾	4%	80%
豪州国内	23%	143%
その他	14%	72%
合計	100%	101%

豪州年間牛処理頭数推移

【2018年3月期　海外事業本部　営業利益増減要因と営業利益額計画】

海外事業本部	営業利益増減要因								
	4Q			下期			通期		
	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異	2Q時見込み	見込み	差異
豪州事業部	7億円	0億円	△ 7億円	1億円	△ 1億円	△ 2億円	△ 9億円	△ 11億円	△ 2億円
米州事業部	1億円	△ 3億円	△ 4億円	△ 3億円	△ 11億円	△ 8億円	△ 11億円	△ 20億円	△ 8億円
アジア・欧州事業部	3億円	△ 1億円	△ 3億円	6億円	3億円	△ 3億円	6億円	3億円	△ 3億円
その他要因	△ 1億円	△ 1億円	0億円	△ 1億円	△ 1億円	△ 0億円	△ 1億円	△ 2億円	△ 0億円
合計	11億円	△ 4億円	△ 15億円	4億円	△ 10億円	△ 14億円	△ 16億円	△ 30億円	△ 14億円

営業利益額計画					
4Q		下期		通期	
2Q時見込み	見込	2Q時見込み	見込	2Q時見込み	見込
3億円	△ 4億円	△ 6億円	△ 8億円	△ 26億円	△ 28億円
2億円	△ 2億円	6億円	△ 2億円	2億円	△ 6億円
0億円	△ 3億円	2億円	△ 1億円	6億円	3億円
△ 3億円	△ 3億円	△ 6億円	△ 6億円	△ 10億円	△ 10億円
2億円	△ 13億円	△ 3億円	△ 17億円	△ 28億円	△ 42億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

Ⅲ．2018年3月期　第3四半期財務データ

1．2018年3月期連結業績概要及び通期計画

2．販管費、その他の営業費用、その他の収益

3．連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

1．2018年3月期連結業績概要及び通期計画

Nipponham Group
人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	2017年3月期実績			2018年3月期実績及び計画								
	3Q 累計実績	4Q 実績	通期 累計実績	3Q 累計実績	前年比	数量 伸長率	4Q 見込み	前年比	数量 伸長率	通期 見込み	前年比	数量 伸長率
売上高	926,349	275,944	1,202,293	981,110	5.9	-	288,890	4.7	-	1,270,000	5.6	-
ハム・ソーセージ	112,308	29,054	141,362	111,177	△ 1.0	1.5	29,923	3.0	4.0	141,100	△ 0.2	2.0
加工食品	174,829	54,075	228,904	182,370	4.3	3.8	56,730	4.9	3.9	239,100	4.5	3.9
食肉	516,324	157,547	673,871	556,145	7.7	5.0	167,755	6.5	12.4	723,900	7.4	6.7
牛肉	209,493	57,726	267,219	228,277	9.0	17.3	68,423	18.5	46.0	296,700	11.0	23.1
豚肉	167,432	54,166	221,598	175,677	4.9	1.3	53,323	△ 1.6	1.9	229,000	3.3	1.4
鶏肉	120,181	38,947	159,128	133,407	11.0	1.8	39,393	1.1	7.5	172,800	8.6	3.1
その他食肉	19,218	6,708	25,926	18,784	△ 2.3	△ 8.8	6,616	△ 1.4	△ 17.8	25,400	△ 2.0	△ 11.1
水産	72,260	19,377	91,637	75,660	4.7	4.2	19,640	1.4	△ 4.0	95,300	4.0	1.8
乳製品	25,406	7,974	33,380	27,361	7.7	7.6	8,439	5.8	1.0	35,800	7.2	6.0
その他	25,222	7,917	33,139	28,397	12.6	-	6,403	△ 19.1	-	34,800	5.0	-
売上原価	744,283	224,712	968,995	795,147	6.8							
売上総利益	182,066	51,232	233,298	185,963	2.1							
売上総利益率	19.7%	18.6%	19.4%	19.0%	-							
販売費及び一般管理費	135,701	43,795	179,496	140,782	3.7							
営業利益	46,365	7,437	53,802	45,181	△ 2.6		6,819	△ 8.3		52,000	△ 3.3	
税引前利益	42,527	6,585	49,112	45,006	5.8		5,994	△ 9.0		51,000	3.8	
法人税等	12,964	1,566	14,530	12,602	△ 2.8		1,998	27.6		14,600	0.5	
税率	30.5%	23.8%	29.6%	28.0%	-		33.3%	-		28.6%	-	
非継続事業の損益	△ 12	-	△ 12	-	-		-	-		-	-	
当社株主帰属当期純利益	29,633	5,371	35,004	32,923	11.1		4,077	-		37,000	5.7	

＊米国会計基準を組替えて表示しております。

＊前年比は、対前年増減率で表示しております。

2. 販管費、その他の営業費用、その他の収益

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	≪販管費≫	2017年3月期 第3四半期累計実績	2018年3月期 第３四半期累計実績	対前年増減率	対前年増減額
★①	販売費および一般管理費	135,701	140,782	3.7	5,081
	人件費	51,932	52,841	1.8	909
	広告宣伝費	7,907	7,496	△ 5.2	△ 411
★②	物流費	41,713	44,265	6.1	2,552
	その他	34,149	36,180	5.9	2,031

主な増減要因

★① 販管費　51億円増加したが、販管費率は14.6%から14.3%と0.3ポイント低下した。

★② 物流費　運賃の上昇等により26億円増加した。

		2017年3月期 第3四半期累計実績	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 第3四半期累計実績	対前年同期増減
	その他の営業費用及び（△収益）-純額	3,164	5,320	1,407	△ 1,757
	固定資産関連	325	2,427	1,381	1,056
★①	特別退職金	2,839	2,895	26	△ 2,813
	その他	-	△ 2	-	-
	その他の収益及び（△費用）-純額	198	1,770	△ 117	△ 315
	受取利息・配当金	867	1,162	961	94
	為替差損益	△ 1,127	106	△ 208	919
	その他	458	502	△ 870	△ 1,328
	プロ野球選手移籍金	-	-	2,273	2,273
	支払利息	872	1,140	924	52

主な増減要因

★①特別退職金　前期に発生した転籍者に対する特別加算金の解消で大幅な減少。

3. 連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

Nipponham Group
人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	≪連結貸借対照表≫	2017年3月期 期末実績	2018年3月期 第3四半期実績	対前期末 増減率	対前期末 増減額
★①	資産合計	720,276	765,861	6.3	45,585
	現金及び現金同等物	82,639	39,958	△ 51.6	△ 42,681
★②	売上債権	128,579	192,660	49.8	64,081
	棚卸資産	132,697	139,892	5.4	7,195
	有形固定資産	283,364	298,207	5.2	14,843
	投資及びその他の資産	45,172	49,886	10.4	4,714
	長期繰延税金資産	7,627	11,405	49.5	3,778
	負債合計	311,920	322,274	3.3	10,354
★③	支払手形及び買掛金	101,857	138,666	36.1	36,809
★④	有利子負債	138,284	117,175	△ 15.3	△ 21,109
	退職金及び年金債務	13,268	13,937	5.0	669
	当社株主資本	404,126	438,345	8.5	34,219
	非支配持分	4,230	5,242	23.9	1,012
	資本合計	408,356	443,587	8.6	35,231

主な増減要因

- ★① 資産合計　売上債権の増加や設備投資及びウルグアイＢＰＵ社取得による固定資産の増加等で456億円の増加。
- ★② 売上債権　季節要因による売上増で641億円の増加。
- ★③ 支払手形及び買掛金　季節要因により368億円の増加。
- ★④ 有利子負債　借入債務の返済や転換社債の株式への転換等により211億円の減少。

（単位：百万円、%）

≪設備投資額、減価償却費≫	2017年3月期 第3四半期実績	2018年3月期 第3四半期実績	2018年3月期 対前年増減率	2018年3月期 対前年増減額	2018年3月期 通期計画
設備投資額	26,697	23,613	△ 11.6	△ 3,084	40,000
生産設備	12,005	11,526	△ 4.0	△ 479	21,000
販売・物流設備	4,377	3,199	△ 26.9	△ 1,178	5,000
ﾌｧｰﾑ・処理設備	5,160	5,867	13.7	707	9,000
海外事業設備	2,679	2,585	△ 3.5	△ 94	4,000
その他設備	2,476	436	△ 82.4	△ 2,040	1,000
減価償却費	14,657	15,590	6.4	933	21,000

お問合せ先
〒141-6014　東京都品川区大崎2－1－1
ＴｈｉｎｋＰａｒｋ　Ｔｏｗｅｒ　14階
日本ハム株式会社　広報ＩＲ部
電話：03-4555-8024
FAX：03-4555-8189

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。
これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。
また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。
従って、これら業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え頂きますようお願い致します。
また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おき下さい。